

競技要項 スノーボード

1. 競技種目

- ①基本スキルコンテスト
 - ・10m スケーティング
 - ・グライド
- ②スーパーグライド
- ③初級ジャイアントスラローム (GSL)
- ④中級ジャイアントスラローム (GSL)
- ⑤上級ジャイアントスラローム (GSL)

2. 会 場

沼尻スキー場

3. 競技ルール

国際スキー連盟競技規則最新版、全日本スキー連盟競技規則最新版、公式スペシャルオリンピックス冬季スポーツルール(2010年1月改訂版)による。ただし、本大会ルール委員会によって定められた細則が優先する。

4. エントリー

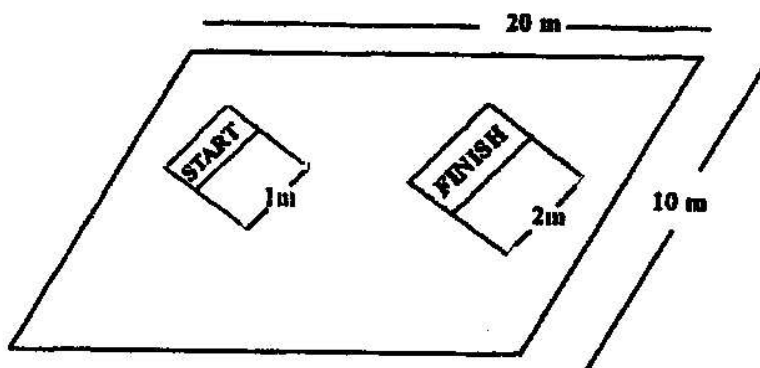
1人1種目のエントリーとする。

5. ディビジョニング及びスペシャルオリンピック精神の遵守

アスリートとコーチは、公式スペシャルオリンピックスポーツルール(2010年1月改訂版)第1章総則セクションIをよく理解しておくこと。

6. 競技方法

- 1) 基本スキルコンテスト: 10m スケーティング
 - (1) コース図



(2)設定

- ・ この種目のために横 20m、縦 10m の平地な場所を用意する。
- ・ 本部と登録場所になるべく近い場所にする。
- ・ 1m 間隔で 2 本のポールを立て、その間の雪上にスタートラインを引く(色をつける)。
- ・ スタートから 10m のところに、2m 間隔で 2 本のポールを立てて、その間の雪上にフィニッシュラインを引く(色をつける)。

(3)レースの進行

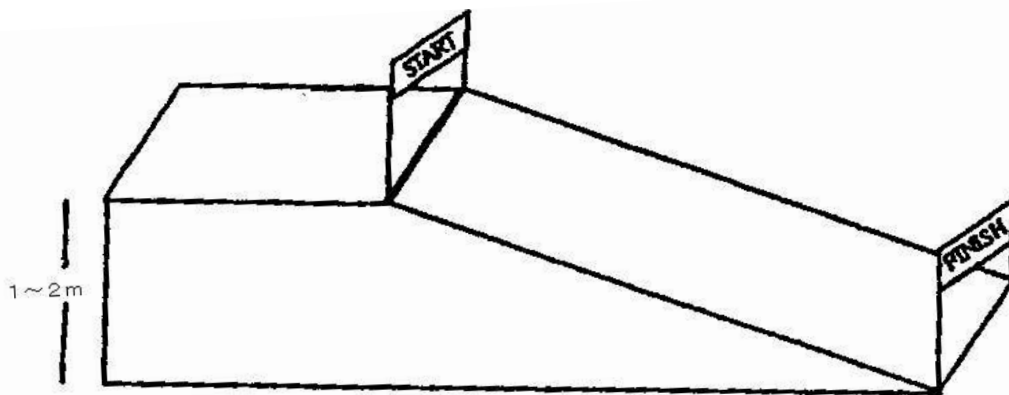
- ・ アスリートはスタート地点で片足のブーツの先端がスタートラインにくるように立つ。
- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。もしアスリートがうまくスタート出来ないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切ったら計時を始める。
- ・ アスリートはスタートからフィニッシュへ滑って行く。
- ・ スタートとフィニッシュに旗を使う。
- ・ アスリートの左右どちらかの足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(4)競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は2回とする。
- ・ 決勝の滑走は1回とし、10m スケーティングとグライドの合計記録が表彰対象となる。

2)基本スキルコンテスト:グライド

(1)コース図



(2)設定

- ・ 斜面は本部に近い所にする。
- ・ 斜面の高さは 1~2m にする。
- ・ 斜面の長さは 10~15m にする。
- ・ 斜面はなだらかでフィニッシュ地点は平坦になるようにする。
- ・ スタート地点は平坦にし、平坦な部分が斜面にかかる点にスタートラインを引く。スタートラインをはさんで 1m 間隔に 2 本のポールを立てスタートゲートとする。
- ・ フィニッシュラインをはさんで 4m 間隔に 2 本のポールを立てフィニッシュゲートとする。可能であればフィニッシュ用のバナーを使う。

(3) レースの進行

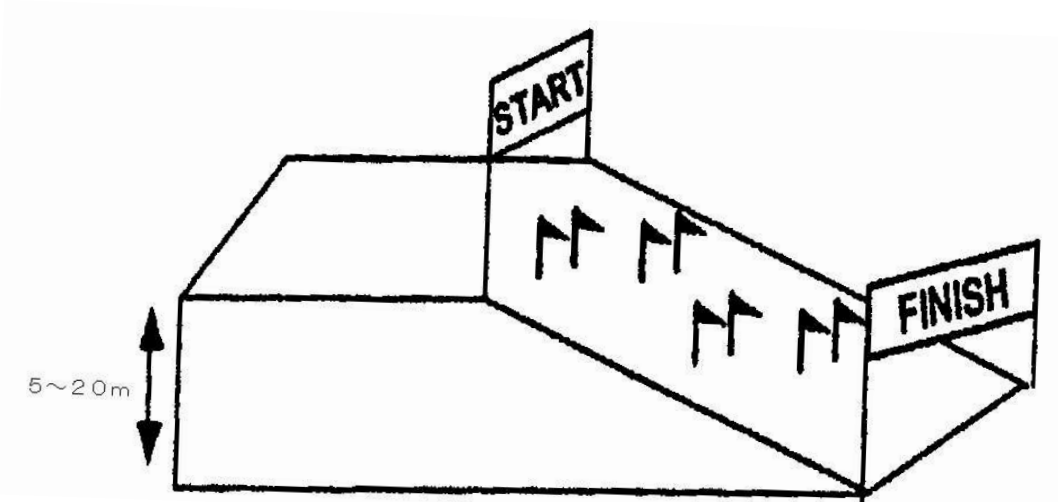
- ・ アスリートはスタート地点で片足のブーツの先端がスタートラインにくるように立つ。
- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。もしアスリートがうまくスタート出来ないときは、スタート審判員はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切ったら計時を始める。
- ・ アスリートはスタートからフィニッシュへ滑って行く。
- ・ アスリートの左右どちらかの足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(4) 競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は2回とし、タイムの良い方を記録として採用する。
- ・ 決勝の滑走は1回とし、10m スケーティングとグライドの合計記録が表彰対象となる。

3) スーパーグライド

(1) コース図



(2) 設定

- ・ 斜面は本部近くにする。
- ・ 斜面の高さは5~20mとする。
- ・ コースの幅は最低25mとする。
- ・ コースの長さは50~100mとする。
- ・ スロープは斜面が一定で、途中で急斜面あるいは登り斜面がないようにする。
- ・ 2ターンが出来るように2~4の旗門を設定する。
- ・ スタート地点は平坦にして、平坦な場所が斜面にかかる場所にスタートラインを引くか計時バーを設定する。
- ・ スタートラインの幅は1m以内とする。
- ・ フィニッシュ地点は少なくとも幅4mにしてアスリートが平坦な場所に入って来られるようにする。

(3) レースの進行

- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切るか、アスリートの足が計時バーを動作させた時に計時を始める。
- ・ アスリートの左右どちらかの足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(4) 競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は2回とし、タイムの良い方を記録として採用する。
- ・ 決勝の滑走は1回とし、その記録が表彰対象となる。
- ・ 予選レースで2回とも失格となった場合は失格となり、決勝では該当ディビジョンの最後に滑る。表彰式へは他のアスリートとともに参列する。

4) ジャイアントスラローム

(1) 初級 GSL のコース設計

ゲートの数	高度差	コースの幅	クラス
5~15	20~70m	40m	初級者

(2) 中級 GSL のコース設計

ゲートの数	高度差	コースの幅	クラス
15~30	50~150m	40m	初・中級者

(3) 上級 GSL のコース設計

ゲートの数	高度差	コースの幅	クラス
20~40	100~300m	40m	中級者

(4) レースの進行

- ・ アスリートは、「5、4、3、2、1、ゴー」の合図でスタートを切る。
- ・ アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切るか、アスリートの足が計時バーを動作させた時に計時を始める。
- ・ アスリートの左右どちらかの足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

(5) 競技記録および順位

- ・ 予選の滑走は2回とし、タイムの良い方を記録として採用する。
- ・ 決勝の滑走は1回とし、その記録が表彰対象となる。
- ・ 予選レースで2回とも失格となった場合は失格となり、決勝では該当ディビジョンの最後に滑る。表彰式へは他のアスリートとともに参列する。

5) 失格の判定

- ・ 転倒、ゲートの回り損ね、ボードが外れるなどして規定コースから外れ、2分以内に規定コースに戻れない場合。
- ・ レース中に他人のあらゆる補助を受けた場合。
- ・ ルール委員会が失格と判断した場合。

6)服装・用具

- ・ 競技においては、ヘルメットの着用を義務付ける。
- ・ 必要に応じて、プロテクターなどの防具を付けることが望ましい。
- ・ リーシュコードを必ず着用すること。
- ・ 手袋を着用すること。

7)その他

- ・ アスリートは、練習中または競技中のいかなるときも、ヘルメットを着用していなければならない。
- ・ 指定コース内での公開練習には必ずゼッケンを着用すること。
- ・ コースセッティングは競技委員長が担当する。

7.抗議

ヘッドコーチのみ(欠席時は他の登録コーチ)、最初のリザルトの掲示後 15 分以内に、所定の用紙に必要事項を記入し抗議できる。

8.その他

- ・ 本ルールおよび競技要項に定めない事項は、その都度ルール委員会が決定する。

9. 競技日程

- | | |
|----------|----------|
| 2月11日(土) | 開始式・予選競技 |
| 12日(日) | 決勝・表彰式 |